



東洋大学

TOYO UNIVERSITY

Newsletter No.7

March 2004

国際共生社会研究センター

Center for Sustainable Development Studies

オープンリサーチセンター

国際シンポジウム「環境共生社会の構築に向けて」のご案内

プロジェクト1リーダー 藤井 敏信

およそ七千年前の農業革命、三百年前に始まる産業革命、そして近年の情報革命を経つつ、人類は等比級数的にその生活領域と総人口を増大させてきた。特に産業革命以降は、機械の発明により人間のスケールを超えた生産力とエネルギーを手に入れ、ひたすら都市の拡大、自然の人工化を進めてきた。その間、先進国を中心に物的な生活水準は飛躍的に向上したが反面、公害や過密、資源の枯渇など工業化、都市化のもたらした負の側面も大きな課題となっている。一方で、こうした局面を打開すべく、「都市」と「農村」の結婚を提唱したハーワードの田園都市構想にみられるように、さまざまな地域形成の提案が試みられてきた。しかし、これまでの流れをみれば、人類の加速化する勢いはこの21世紀においても止まるところがないように見える。振り返れば20世紀は、地球の生態的環境を人為的に操作し、グローバル化する市場に向けて様々な資源を消費し、都市域での過密拡散を増幅させた時代であった。その結果、周知のように限界ある地球資源を顕在し、南北間の経済格差や貧富の所得格差を拡大させ、不可逆的な環境破壊を招き、ひいては生物としての人間の存在そのものを脅かす事態すら予想されるところまで来ている。こうした認識に立つとき「sustainability」は、人間と環境の関わり方を根底から見直す意味で、まさに21世紀を解く地域開発の基幹概念といえよう。

当シンポジウムでは「環境共生」の具体的な考え方・戦略をとりあげて議論し、来るべき時代を構想したい。

- 日程：2004年7月9日（金）午後
- 会場：井上記念館 井上円了ホール
(東京都文京区白山5-28-20 東洋大学白山キャンパス内)
- 講演者及び演題（予定）
 - 松尾友矩（東洋大学学長／東洋大学国際共生社会研究センター センター長）
基調講演：「環境共生社会の構想」
 - 未定（イギリスより田園都市研究関係者の招聘を予定。）
「環境共存の考え方」
 - ブンヨン・チンスイモン
(タイ、チュラロンコン大学助教授)
「多民族共生の考え方」
 - 竹村牧男（東洋大学文学部教授）
「環境共生の考え方」
 - 藤井敏信（プロジェクト1リーダー）
「用途混在の考え方－混住環境の可能性」

- ★終了後は懇親会を予定しています。
- ★講師は変更の可能性があります。演題は全て仮題です。
- ★詳細は次回のニュースレターにてご紹介いたします。

ワークショップ「持続可能な地域開発に向けて」報告

去る2004年1月10日にワークショップ「持続可能な地域開発に向けて」が開催され、当センターの研究に関する

交流が行われ大きな成果をあげました。一部前号と重複しますが、当日の内容を以下に報告します。

第I分科会 発展途上国の地域開発における環境配慮

プロジェクト3 研究員 金子 彰

1. 目的

国際共生社会研究センターにおいては発展途上国における地域開発のあり方について多方面にわたる研究を実

施しているが、その研究成果を発表すると共に関連する分野の研究者や実務者からもそのとりくみについて発表をいただき相互に意見交換をすることにより、その分野